

彩の歳時記

平成 二十八年 三月

春思 賈至

草色青青柳色黄
桃花歷亂李花香
東風不為吹愁去
春日偏能惹恨長

草色青青として柳色黄なり
桃花歴亂として李花香し
東風為に愁いを吹き去らず
春日偏に能く恨みを惹いて長し

草は青青として柳の新芽は黄金の色、桃の花は一面に咲き乱れ、李の花は香しい。

東風は私の愁いを吹き去らず、春の日は憎らしくも、心に深い嘆きを起こす。

「春思秋愁」と言うように、天氣不順(三寒四温)で、急に初夏の

気温になったり、ぐんと冷え込んだりと体調を狂わせ物憂い気分が

誘発される中、年度末と新年度で身辺が落ち着かず、物思いの種

も多くなる時期です。「春思」は万物萌え出づる華やかさの裏にひそむある種の暗さ

倦怠感を伴った思いを詠んだ盛唐時代の七言絶句。紅葉・落葉、風が寒さを増し、

冬を迎えるという寂寥感の「秋愁」とは、また異なる愁いを感じる春です。

さまざまのこ思ひ出す桜かな

芭蕉



三月の暦

弥生(やよい) 弥生(いやおい)が変化したもの。弥(や)は「いよいよ・ますます」生(お)は「生い茂る」の意。

三日

雑祭(桃の節句・上巳の節句) 起源は紀元300年頃。古代中国の「上巳・旧暦三月の最初の巳の日」

で五節句の一つ。旧暦では桃の時期であるため桃の節句。平安時代始まった雛飾りは男雛(おびな)

を「内裏だいら様」女雛(めびな)を「お雛様」三人官女以下を「共ども揃い」という。

春の苑 紅にほふ桃の花 下照る道に 出立つをとめ 大伴家持【万葉集】



五日

啓蟄【二十四節気】陽気地中にうごき、蟄虫(ちぢまる虫) 穴ひらき出れば也(暦便覧)

蟄居(ちつきよ)とは家に閉じこもって出ないことで、自宅謹慎を昔はこう称した。

十日

東京都平和の日 東京大空襲により十万人が犠牲になり第二次大戦最高の被害を出した日。

「東京都平和の日条例」により、1990(平成2年)に制定。

十一日

東日本大震災の日 2011年(平成23年)に発生した日本の観測史上最大の地震。

震災が引き金となって福島第一原子力発電所のメルトダウン事故が発生した。

この日、国立劇場で天皇皇后両陛下開かれる・安倍首相ら各界代表が参加して、追悼式が開かれる。



十二日

東大寺二月堂お水取り 春の訪れを告げる年中行事。十二日の夜、鐘の合図と共に

籠松明(かごたいまつ)が本堂の回廊を駆け抜け、浴びると除災になるといわれる

火の粉を浴びる為、多くの群衆が押し寄せ、賑わいを見せる。

十四日

ホワイトデー 1978年に菓子業界によって決められたバレンタインデーのアンサーデー

砂糖の白に因む。



十七日

彼岸の入り【雑節】この日を含めた七日間が彼岸の期間

二十日

春分の日【二十四節気】日天の中を行って昼夜等分の時也(暦便覧)



お墓参り。花冷えや寒の戻りがあるので体調管理はしっかりと・・・

二十一日

振替休日 1973年(昭和48年)から。

二十五日

桜始め咲く【雑節】温暖化現象で早くなりつつある。今年は何?

三月の歌

乾杯 1980年 詞・曲 長瀬剛【1956年〜】



長瀬が友人の結婚を祝福するために書いた曲。人生の大きな節目に置かれた人間への応援歌。結婚披露宴や卒業式などで歌われることが多い。80万枚近い売り上げを記録。第30回レコード大賞で金賞。80年代以降は小学校の教科書に掲載。1990年の紅白歌合戦で、前年に崩壊したベルリンの壁の前で、長瀬が「乾杯」を含め三曲を歌った。歌唱時間の「」分は紅白歌合戦史上最高。

かたいきずなに想いをよせて
語り尽くせぬ青春の日々
時には傷つき時には喜び
肩をたたき合ったあの日
あれからどれくらいたったのだろう
沈む夕日をいくつかぞえたらう
ふるさとの友は今でも君の
心の中にいますか

* 乾杯 今君は人生の大きな
大きな舞台上に立ち
はるか長い道のりを歩き始めた
君に幸せあれ 中略

* 繰り返し